

令和 7 年 4 月 21 日

(※受付番号 131)

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

研究コース
A グループ研究A
校園コード（代表者校園の市費コード）
531062

代表者	校園名：	野田小学校
	校園長名：	川辺 智久
	電話：	6461-0520
	事務職員名：	児嶋 桜子
申請者	校園名：	大阪市立野田小学校
	職名・名前：	主務教諭 横山 健治郎
	電話：	6461-0520

令和7年度「がんばる先生支援」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	継続研究（3年目）
2	研究テーマ	ビジョントレーニングを活用した「見る力」の育成			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てて記載してください。</p> <p>○さまざまな情報が益々あふれるこれからの中では資料を正確に読み解いていく総合的な読解力はますます求められている。しかし、子どもの中にはものを見えてはいても、それが何なのか理解できない、また、それを表現することができない子どもが多い。さらに、特別支援学級在籍の子どもや通級学級の中には「見る力」が充分に育っておらず、学習に困難さがみられる場合も多い。そこで本校では、2年前よりビジョントレーニングの研究に取り組んできた。2年前の研究発表では他校から70名以上、昨年度の研究発表には100名近く参加者を得て、様々な実践交流・情報交換の場を提供することができた。本研究に対する関心の高さを示していることから、本校だけでなく、大阪市の子どもたちにとって意義にある研究になると考える。そこで、本年度も引き続き研究を進め、その成果について全市に発信を広げていきたい。</p> <p>今年度の本研究の目的は主に次の二つである。</p> <p>①ビジョントレーニングの効果的な活用方法と新しい手法の開発（特別支援学級や通級教室での活用をもとに通常学級での活用方法を見出す）</p> <p>②「見る力」を活用したビジョントレーニング教材の開発とその意義の発信</p>			
4	研究内容	<p>(1)研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>ビジョントレーニングでは「見る力」を、①ものを見る力②脳で理解する力③口や動作でアウトプットする力の三つに分類する。本研究においてはこれら三つの力の育成を視点とし、研究を進めていきたい。</p> <p>①目で見る力の育成</p> <p>「目で見る力」とは視線を素早く動かしたり、対象を目で追ったりする力のことである。昨今は複数の資料から情報を選択することが求められることが多い。さらに情報過多の時代において、情報を精読する前に必要な資料が何かを判断することも多い。まずは情報の全体像を捉えたり、二つの情報の同じ部分や違う部分をみつけたりするなどの「ものを見る力」を育てる。</p> <p>②（見たものを）脳で理解する力</p> <p>「脳で理解する力」とは、「見る」ことによって得た情報を処理し、理解する力である。これから社会で大切なのは、情報を自ら思考・判断していく力である。情報の8割は、目から得ていると言われております、その情報を脳で理解する力を育てていくことが大切である。「脳で理解する力」を伸ばすことで発達障害の子どもに多いと言われる視覚優位の子が強みとして持ちやすい「ものを見る力」も、より効果的に発揮できるようになると考へる。</p> <p>③口や動作でアウトプットする力</p> <p>「口や動作でアウトプットする力」とは、理解したことを自分の言葉や動作によって実際に表現する力である。目で見たことを理解し、それを体の動きにつなげることが、難しい子どもも多い。黒板に書いてあることをノートに書き写すなどの活動がうまく行かず、獲得した情報を理解しているにも関わらず、自分自身が学習に苦手意識を持ったり、周囲からうまく理解されなかつたりといったことがある。このような力を伸ばすことで、子どもたちは自信をもって学習に参加でき、自身の得た情報を発信できるようになる。</p> <p>ビジョントレーニングでは特に、発達障害の子どもの学力や運動能力の向上に有効であるといわれている。そこで、本研究では子どもを対象にした効果検証を行うだけでなく、特別支援の子どものみを対象とした効果検証も行いたい。</p> <p>(2)継続研究〔2年目〕 ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>昨年度の研究発表会後のアンケートの結果、通常学級に在籍をしながら支援が必要な子ども、つまり「通級指導教室」の対象になるような子どもへのアプローチの一つとして、ビジョントレーニングの必要性や可能性を感じているという声が非常に多かった。本校においても、本年度より「自校通級指導教室」が開設されることもあり、基本的には昨年度の研究内容を深化充実させるなかで、特に「自校通級指導教室」において、どのようなビジョントレーニングが有効であるかについても焦点を当てて、研究を深めていく。</p> <p>(3)継続研究〔3年目〕</p>			

継続研究2年目だった昨年度は、ビジョントレーニングを主として通級指導教室で実践し、教材研究を通して追従性眼球運動や跳躍性眼球運動などのトレーニングを様々な学習活動を関連付けていくことで、板書をノートに写す速度が向上したり、写し間違いが減ったりするなど、児童の学級での学習活動がスムーズになった事例があった。またビジョントレーニングを活用した通級指導の在り方について、多くの先生方に興味を持っていただき、大阪市全体に発信することができた。

しかし、児童の成長した部分におけるビジョントレーニングの効果や質、練習量等の関係は、多数の要素が相関しており、ビジョントレーニング独自の効果・評価が難しかった。

そこで、今年度は、アセスメントや評価もひとつの大きな研究項目とし、どのようにすれば子どもの変容を見とることができるかを研究の柱の一つとする。と共に通常学級での活用にも拡張できるような教材開発と指導計画を行っていく。

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5	活動計画	<p>4月 【研究企画会】昨年度までのビジョントレーニングの総括と、今年度の研究計画の作成、大きな方向性の共通理解を図る。 通級指導教室での活用方法や有効な教材の選定を行う。</p> <p>5月 【校内研修】主に転入教職員のためのビジョントレーニングの体験研修。 通級教室での事例の紹介</p> <p>6月 【研究推進委員会】特別支援教室や通級教室、通常教室で、ビジョントレーニングをどのようにとりいれていくのか、どのようなアセスメントをしていくのかの具体的方針を決定する。 現時点でのアセスメントツールやアセスメント方法の共有を図る。</p> <p>【テストの実施】アセスメントテスト1回目を実施する</p> <p>7月 【校内研修】講師によるビジョントレーニングの教員研修会の実施。主にアセスメントの方法について (一般社団法人視覚トレーニング協会代表理事 北出 勝也さん) 教員アンケートの実施。</p> <p>8月 【研究推進委員会】研修の振り返りを行い、2学期からの計画の修正、新たな教材の紹介・共有</p> <p>9月 【実践研究会①】ビジョントレーニングを活用したビジョントレーニングの実践・検討会①</p> <p>10月 【実践研究会②】ビジョントレーニングを活用したビジョントレーニングの実践・検討会②</p> <p>11月 【実践研究会③】ビジョントレーニングを活用したビジョントレーニングの実践・検討会③</p> <p>12月 【テストの実施】6月に実施した1回目のアセスメントの内容と同様のテストを実施し、分析を行う。</p> <p>1月 【研究発表会及び研修会】参加者へのアンケートの作成・実施・集計・分析 (一般社団法人視覚トレーニング協会代表理事 北出 勝也さん)</p> <p>2月 【アンケートの実施】教員へのアンケート実施、取り組みの成果と課題のまとめ、報告書作成。</p>
		『検証方法』
		<ul style="list-style-type: none"> ・【校内研修】講師によるビジョントレーニングの教員研修会の実施 (一般社団法人視覚トレーニング協会代表理事 北出 勝也さん) ・【研究発表会及び研修会】参加者へのアンケートの作成・実施・集計・分析 (一般社団法人視覚トレーニング協会代表理事 北出 勝也さん)
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>(1)継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。 理由 昨年度の課題からビジョントレーニングにおけるアセスメントについてより焦点化して研究を進めるため</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>(2)大阪市教育振興基本計画に示されている、「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成および、「教員の資質や指導力」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに□を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上 ビジョントレーニングを日常的に活用することによって①ものを見る力②脳で理解する力③口や動作でアウトプットする力によって構成される「見る力」を向上させ、視覚的な能力を強化する。</p> <p>『検証方法』 経年調査の過去問題における「活用」に関わる問題（特にいくつかの資料から総合的に考える問題など）を6月と12月に行い、正答率が6ポイント以上向上させる。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上 ビジョントレーニングを日常的に続けることによって迅速かつ正確に情報を処理する力を高め、視覚的な能力を強化する。</p> <p>『検証方法』</p> <p>①ビジョントレーニングにおける視覚機能の向上を専門機器（トレーニングギアREACTION）で測定し、反応速度を2秒以上向上させる。 ②ビジョン・アセスメントツールの「WAVES」を2回活用し、平均値を向上させる。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>ビジョントレーニングによって子どもにどのような変容があるのかを見取る教員のアセスメントの力を向上させる。</p> <p>教職員アンケートを行い、「子どもを見取る力が向上しましたか」の項目において、肯定的評価を80%以上にする。</p> <p>【見込まれる成果4】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>《検証方法》</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="519 1059 1627 1130"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 1 月 19 日</td> <td>場所</td> <td>野田小学校</td> </tr> </table> <p>◆【必須】 ×2</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="519 1231 1135 1302"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 8 年 2 月 24 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 8 年 1 月 19 日	場所	野田小学校	日程	令和 8 年 2 月 24 日
日程	令和 8 年 1 月 19 日	場所	野田小学校					
日程	令和 8 年 2 月 24 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目）</p> <p>本研究を進めることによって、令和7年度末までに3年生以上で週1時間実施とされている「総合読解力育成の時間」の在り方の1つとして、ビジョントレーニングは、大きなヒントとなる可能性があると考えている。</p> <p>また、本校は来年度より「自校通級学級」の開設が決まっている。通常学級に在籍しているが、発達障がいのため、本人にあった特別な指導が別途必要としている子どもにどのような支援をしていくかが喫緊の課題であり、その点からもビジョントレーニングの研究は大きな示唆が得られると考えている。</p> <p>2. 継続研究（2年目）</p> <p>昨年度の研究を通して、令和6年度より本校で開設する「自校通級教室」の指導について、試行的に実践を重ねてきた結果、昨年度の選定番号114の「ボードゲーム」には、ビジョントレーニングの要素が含まれたゲームも数多くあり、双方とも「自校通級学級」の指導に光明が見いだすことができた。ボードゲームの研究と併せて、さらに「自校通級教室」の指導におけるビジョントレーニングの有効性を検証していきたい。また、昨年度の研究発表において、他校から70名もの参会者があったことからも、その反響は大きく、今後の本市教育推進において、ビジョントレーニングが1つの大きなツールになる可能性を秘めていると言える。この分野の第一人者である北出先生とのつながりを作れたことも大きく、本校における研究をさらに深め、本市の多くの学校にビジョントレーニングの効果を広めることができるようにしていきたい。</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>発達障がい等の児童に対して、苦手なことを克服するために取組んでいることが、かえって児童の苦手意識を高めてしまうことがよく見られる。意外に支援者がその原因に気付いていないことが多い、この躓きの原因やその見立てができることで支援が大きく変わることがある。中でも「見る力」が弱いことから学習の困難に影響している場合は、ひたすら音読や書き取りの練習だけを積み重ねても効果が出にくいことがあり、ビジョントレーニングで見る力を高めることで、学習に取り組む際に必要な情報処理や眼球運動の調整などがうまくできるようになり、物事をじっくりと考えたり、理解したりする力を確保できることが期待されている。</p> <p>本校では、令和6年度より通級指導を開設しているが、ボードゲームの研究と併せてビジョントレーニングは発達障がいのある児童の支援に有効であることが明らかになった。また、昨年度の研究発表において、他校から約100名もの参会者があったことからも、その反響は大きく、今後の本市教育推進において、ビジョントレーニングが1つの大きなツールになる可能性を秘めていると言える。研究3年目となる今年度は、本校における研究をさらに深めるとともに、ビジョントレーニングの効果を全市的に広く発信していきたい。</p>						